

単元名

『大きなおにぎり』のパネルシアターをしよう

単元目標 身につけさせたい力

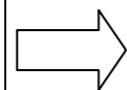
○指導目標

- 物語のあらすじが分かり、登場人物の行動を理解してパネルシアターを操作させることができる。

○指導要領指導事項

- 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。

(C 読むこと ウ)



単元を貫く言語活動

『大きなおにぎり』のパネルシアターをしよう

言語活動を行うために必要な力

○物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。

○本や文章を楽しんだり、想像を広げたりして読む。

○文章を正しく読んだり書いたりする。

- 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気づく。
- 長音、拗音、促音、撥音などの表記に気づき、正しく読んだり正しく視写したりする。
- 句読点の打ち方やかぎ「」の使い方に気づき、正しく視写する。



単元計画と指導構想

『大きなおにぎり』のパネルシアターをしよう

【第1次】(言語活動の見通しをもつ段階)	【第2次】(見通しをもとに、場面の様子を読み取る段階)	【第3次】(言語活動の目的を達成する段階)
<p>教師が準備した『大きなおにぎり』のパネルシアターを見て、自分たちも演じてみたいという意欲と、主人公になってせりふを言って演じる単元への見通しを持つ。</p> <p>(パネルシアター) (1時間)</p>	<p>1 あらすじをとらえる。 (1時間)</p> <p>2 おにぎりの大きさが変わることに注目して、登場人物がしたことを読み取る。 (7時間)</p> <p>1 場面を音読する。 2 場面を視写する。 3 場面のパネルシアターをする。</p>	<p>○場面を意識して、登場人物の気持ちになってせりふを言う。</p> <p>・おにぎりの大きさの変化を意識しながら、パネルシアターを楽しく操作する。</p> <p>(1時間)</p>

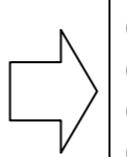
並行読書 → 「いろいろごはん」

手立て

第1次	第2次	第3次
<ul style="list-style-type: none"> ○教師による『大きなおにぎり』の範読・パネルシアターをする。 ○『大きなおにぎり』のお話を、パネルシアターで演じた後、自分たちでパネルシアターを行うことを伝えて、意欲付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○抜けやすい助詞に○印をつけて、意識して正しく読む。 ○音読の時、登場人物のせりふの言い方を工夫して表現させる。 ○さし絵とともに、場面毎に視写を行わせ、おにぎりの大きさが変わっていくことに注意を向けさせて、登場人物の行動や気持ちをとらえさせる。 ○視写の後に、読みを確かめさせるために、おにぎりの変化と会話の確認を行わせる。 ○場面を確認して登場人物の気持ちを想像しながら、パネルシアターでせりふを言わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○登場人物やおにぎりのパネルを、わかりやすい(見て手に取りやすい)配置で机上に並べる。 ○自分のペースで行うことで、パネルの操作とせりふを表現しやすくなる。

実践の成果

- 変化のあるさし絵を提示することで、物語の流れがとらえやすかった。
- 教師とのやりとりで読み取りを深めることができた。
- 個に応じたプリントを用意することで、スムーズに視写することができた。
- 毎時間最初に通して音読することで、音読のつまずきが少なくなった。
- 食べ物に関する教材は、子どもたちの関心を持続させやすかった。



課題

- 子どもと教師の読みを深める場を工夫する。
- パネルシアターを生き生きと操作できるように、もっと行動を伴った読み方を多く取り入れる。
- 教科書のみならず、自由なせりふで表現させる場面を増やす。
- 発表する場を設定する。(お客様を迎えるなど)